

1 得点分布及び小問ごとの正答率

〈表1〉得点分布

得点	人数	
	人数	%
100	0	0.0
90～99	28	4.3
80～89	128	19.7
70～79	176	27.1
60～69	134	20.6
50～59	85	13.1
40～49	61	9.4
30～39	26	4.0
20～29	10	1.5
10～19	2	0.3
1～9	0	0.0
0	0	0.0

*合格者の中から、無作為に抽出した650人(13.0%)の結果である。

*%の数値は、小数点第2位を四捨五入したものである。

〈表2〉小問別正答率(%)

大問	小問	正答率	
1	(1)	81.7	
	(2)	89.0	
	(3)	82.7	
	(4)	59.1	
	(5)	73.0	
	(1)	A	61.3
		B	86.4
		(2)	84.3
		(3)	47.5
		(4)	72.6
2	(5)	56.6	
	小計		71.5
	1	(1)	92.0
		(2)	84.5
		(3)	71.2
(4)		50.4	
(5)	ア	94.1	
	イ	60.5	
2	(1)	80.5	
	(2)	92.8	
	(3)	ア	73.8
		イ	73.4
	(4)	57.4	
(5)	28.9		
小計		67.3	

大問	小問	正答率	
1	(1)	54.8	
	(2)	11.1	
	(3)	62.2	
	(4)	81.7	
	(5)	32.7	
2	(1)	ア	82.2
		イ	87.6
	(2)	48.9	
	(3)	65.8	
	(4)	78.8	
(5)	ウ	58.7	
	エ	70.1	
小計		59.4	
3	(1)	97.1	
	(2)	85.8	
	(3)	69.3	
	(4)	58.1	
小計		72.9	

〈表3〉大問別の正答率の経年比較

大問	分野	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
1	地理的分野	66.0	71.4	65.1	74.3	71.5
2	歴史的分野	55.8	66.6	53.3	61.4	67.3
3	公民的分野	61.9	63.8	65.0	66.3	59.4
4	3分野融合	53.3	67.2	43.9	62.7	72.9

2 分析結果の概要

〈表1〉について、70点以上の人数は全体の51.1%で、昨年度に比べ増加した(昨年度44.9%)。50点未満の人数は14.9%で昨年度に比べ減少した(昨年度17.2%)。

〈表2〉について、知識・技能を用いてグラフや図表、年表等の諸資料を活用し、考察したことを表現する力をみる小問(2の(5)、3の1の(5))の正答率が低かった。また、新学習指導要領の中で新たに学習する重要用語を問う3の1の(2)は、特に正答率が低かった。

〈表3〉について、分野別の正答率は地理的分野と3分野融合問題が高く、公民的分野がやや低かった。昨年度との比較では、地理的分野と公民的分野の正答率が低く、歴史的分野と3分野融合問題は高い。

3 小問ごとの内容及びねらい

大問	小問	内容	出題のねらい	出題形式			評価の観点			
				記号 選択	用語 記述	記述	知識 理解	思考 判断	資料 活用	
1	1	地理的分野	(1) 正距方位図法の地図上で、赤道の位置を示すことができる。	○			●		●	
			(2) 正距方位図法の地図上で、方位を示すことができる。		○		●		●	
			(3) 中国の人口移動の理由について、資料を基に考察し、説明することができる。			○		●	●	
			(4) ブラジルの輸出の変化を示す資料を基に、その影響について多面的に考察し、判断することができる。	○				●	●	
			(5) パーク・アンド・ライドの環境保全効果について、資料を基に考察し、説明することができる。			○		●	●	
	2		(1) 戦後の日本経済の大まかな流れや宮崎県の農業の特徴について理解している。		○			●		
			(2) 島根県、奈良県、宮崎県の位置について理解している。	○				●		
			(3) 島根県の気候の特徴について理解している。	○				●		
			(4) 奈良県の人口増加の理由について、資料を基に考察し、説明することができる。			○		●	●	
			(5) 宮崎県を例に、第6次産業をすすめる理由について、資料を基に考察し、説明することができる。			○		●	●	
2	1	歴史的分野	(1) 歴史新聞のテーマについて、資料を基に判断することができる。	○				●	●	
			(2) 7世紀初めの東アジアの様子を理解している。		○		●			
			(3) 大化の改新後の国の政策について理解している。	○			●			
			(4) 承久の乱後の地頭と領家の関係の変化について、資料を基に考察し、判断することができる。	○				●	●	
			(5) 年貢米の流通について、資料を基に考察し、説明することができる。			○		●	●	
	2		(1) 歴史の大きな流れを、各時代の出来事を通して理解している。	○			●			
			(2) 古墳のもつ歴史的意義を理解している。	○			●			
			(3) 豊臣秀吉のキリスト教政策について、資料から読み取り、説明することができる。			○		●	●	
			(4) 日本の紡績業の発展の理由について、資料を基に考察し、説明することができる。			○		●	●	
			(5) 日本の化学繊維工業の発展の背景について、資料を基に考察し、説明することができる。			○		●	●	
3	1	公民的分野	(1) 需要と価格の関係について、具体的事例を通して理解している。	○			●	●		
			(2) 人間の安全保障について理解している。		○		●			
			(3) プライバシーの権利について、具体的事例を通して理解している。		○		●			
			(4) 景気変動の4つの局面について理解している。	○			●			
			(5) 効率と公正の考え方について、具体的事例を基に考察し、説明することができる。			○		●		
	2		(1) 日本の高齢化の進展と課題について、資料から読み取り、説明することができる。			○		●	●	
			(2) 被選挙権について理解している。	○			●			
			(3) 非正規雇用の長所・短所について、多面的に理解している。	○			●	●		
			(4) 裁判員制度の意義について理解している。	○			●			
			(5) 選挙の抱える問題点とこれからの取組について、資料を基に考察し、説明することができる。			○		●	●	
4	融合	融合	(1) 文化の多様性の意義について、資料から読み取ることができる。	○				●	●	
			(2) 大陸の分布について理解している。		○		●		●	
			(3) 戦時下の国民生活のようすについて、資料を基に考察し、説明することができる。			○		●	●	
			(4) 発展途上国の支援の在り方について、資料を基に考察し、説明することができる。			○		●	●	

4 標準解答及び考察

1 <標準解答>

1	(1)	㊦	(2)	南西	(3)	(例) 農村部から都市部へ、より高い所得を求めて人口が移動している
	(4)	エ	(5)	(例) 自動車の走る距離を短くすることで、二酸化炭素の排出量を削減できるので、地球温暖化防止につながる効果がある。		

<ねらい>

夏季オリンピックに関する資料を基に、その開催都市のある国々の特徴を調べる場面の中で、地図の適切な活用方法などについての基礎的・基本的な知識や理解、人口・貿易の変化に関する資料を考察・判断することを通して地理的な見方や考え方の基礎が身に付いているかをみる。また、パーク・アンド・ライドに関する資料を読み取り、適切に活用させることによって、思考力・判断力・表現力等をみる問題である。

<考察>

- ・ (1)の赤道の位置を答える問いや、(2)の方位に関する問い、(3)の人口移動の要因に関する問いは、正答率がそれぞれ81.7%、89.0%、82.7%と高く、十分な理解・判断ができています。
- ・ (4)のブラジルの輸出の変化に伴う様々な影響を判断する問いの正答率は、59.1%で、他の問いと比べてやや低く、資料を基に多面的に考察する力に課題がみられる。

<今後の指導>

- ・ 地理的分野の各項目で学習した成果を踏まえ、日頃から世界の諸地域の特色を考察する学習の機会を設ける。
- ・ 資料を読み取る学習においては、日頃から複数の資料を比較したり相互に関連付けたりする中で、共通性や相違点などを読み取り、考察させる指導を行う。

<標準解答>

2	(1)	A	高度経済成長	B	(例) 促成	(2)	イ	(3)	ウ
	(4)	(例) 大阪府より住宅地の価格が安いので、住宅地が開発され、ニュータウンがつけられた							
	(5)	(例) 全国的に見ると、加工食品・外食等への家計支出の割合が増えてきているが、宮崎県は同じ農業がさかんな北海道と鹿児島県に比べて、農業産出額に対する食料品製造出荷額の割合が少ないからである							

<ねらい>

古事記にゆかりのある3県の資料を基に、その3県の特色について調べる場面の中で、都道府県の位置や気候の地域差についての基礎的・基本的な知識や理解、人口増加や地価に関する資料から仮説を設定する力などをみる。また、第6次産業に関する資料を読み取り、適切に活用させることによって、思考力・判断力・表現力等をみる問題である。

<考察>

- ・ (3)の北西からの季節風を答える問いの正答率は、47.5%と地理的分野の中で最も低く、教科書の重要用語を具体的な事例に当てはめて理解する力に課題がみられる。また、(5)の第6次産業をすすめる理由を考察する問いの正答率は56.6%で、他の問いと比べてやや低い。「全国的な動向」または「宮崎県の特徴」のいずれか一方の解答が多いことから、複数の資料を関連付ける力に課題がみられる。

〈今後の指導〉

- ・ 教科書の重要用語の概念を、地理的事象に当てはめながら、具体的に理解させる指導を行う。
- ・ 様々な資料から特色ある事象に着目し、それを手がかりに地域的特色を考察させる学習の充実を図る。その際、身近な地域への興味・関心も深めさせるよう配慮する。

2 〈標準解答〉

1	(1)	ア	(2)	唐	(3)	ウ	(4)	イ	(5)	ア	年貢米
	(5)	イ	(例) 蔵屋敷へ送り、売っていた								

〈ねらい〉

生徒が作成している歴史新聞を基に、支配体制の変化をテーマにして具体的な歴史的事象を調べる場面の中で、歴史の大きな流れにおける政治の展開の基礎的・基本的な知識や理解、資料の活用能力をみる。また、年貢米の流通に関する資料を読み取り、適切に活用させることによって、思考力・判断力・表現力等をみる問題である。

〈考察〉

- ・ (1)の歴史新聞のテーマを答える問いと、(5)のアの年貢米を答える問いは、正答率がそれぞれ92.0%、94.1%と高く、資料を的確に読み取り、判断することができている。
- ・ (4)の資料から地頭と領家の関係の変化を判断する問いは、正答率が50.4%とやや低い。中世の土地支配に関する基礎的・基本的な知識を踏まえて、資料を基に考察し、判断する力に課題がある。

〈今後の指導〉

- ・ 歴史的事象に対する関心を高めるため、身近な地域の歴史やテーマに基づいた具体的な事象を取り上げ、歴史の大きな流れと各時代の特色を理解できるような指導の工夫を図る。
- ・ 年表や絵図など様々な資料を活用して歴史的事象を多面的・多角的に考察し、その背景を理解させるなど、歴史学習に対する興味・関心を引き出す授業を行う。

〈標準解答〉

2	(1)	ウ	(2)	ア	(3)	ア	(例) 禁止	イ	(例) 奨励した	
	(4)	(例) 機械の導入によって生産量が増えたため（女子労働力にささえられて生産量が増えたため）、綿糸の輸出が輸入を逆転した。（綿糸の生産量が急増した。）								
	(5)	(例) 第一次世界大戦の影響で、ヨーロッパ（ドイツ）からのレーヨンの輸入量が激減し、そのため、国内で生産する必要がでてきたから。								

〈ねらい〉

宮崎県にゆかりのある歴史的人物などに関する資料を基に、それぞれの時代の具体的な歴史的事象を調べる場面の中で、日本の近代化の様子や背景などに関する資料を読み取り、適切に活用させることによって、思考力・判断力・表現力等をみる問題である。

〈考察〉

- ・ (1)の各時代の歴史的出来事を理解する問いと、(2)の古墳のもつ意味を答える問いは、正答率がそれぞれ80.5%、92.8%と高く、基礎的・基本的な知識は身に付いていると考えられる。
- ・ (5)の日本の化学繊維工業が発展した背景を考察する問いは、正答率が28.9%と、歴史分野の中で最も低い。第一次世界大戦に関する基礎的・基本的な知識を基に、複数の資料を関連付け、判断する力に課題がある。

〈今後の指導〉

- ・ 生徒の興味・関心を高めるような資料を活用して、生徒が主体的に調べたり考えたりする活動を通して、疑問点を解決し、歴史を学ぶ意欲が高まるよう指導を工夫する。
- ・ 各時代の特色や時代の転換にかかわる歴史的事象を重点的に選び、基礎的・基本的な知識の理解を図るとともに、各種資料から歴史的事象の意味・意義や特色、事象間の関連をとらえ、自分の言葉で表現できるような学習の機会を設ける。

3 〈標準解答〉

1	(1)	ウ	(2)	人間	(3)	プライバシーの権利	(4)	ア
	(5)	案の記号	A・B	理由	(A案の例) 医療を受ける機会が平等に保障されるので、特定の人が不利になることがないから。 (B案の例) 重複する施設や人員を減らすことができ、市の予算を無駄なく使うことができるから。			

〈ねらい〉

公民的分野の学習のまとめとして、生徒たちがまちづくりに関する提案を行うという場面の中で、需要と価格の関係、景気変動などに関する基礎的・基本的な知識や理解をみる。また、「効率」と「公正」という考え方に関する資料を読み取り、適切に活用させることによって、思考力・判断力・表現力等をみる問題である。

〈考察〉

- ・ (2)の「人間の安全保障」を答える問いの正答率は11.1%で、すべての小問の中で最も低く、新しい学習指導要領の中で新たに学習する重要用語の理解に課題がある。主な誤答例としては、「人権」や「国民」などが多かった。
- ・ (5)の「効率」と「公正」に関する問いの正答率は、32.7%と低く、「効率」と「公正」という新しい学習指導要領の中で新たに学習する見方・考え方を、具体例に当てはめて説明する力に課題がみられる。

〈今後の指導〉

- ・ 公民的分野の学習は、生徒の家庭や学校、地域といった身近な生活と密接に結び付いていることに気付かせるとともに、日常の社会生活と関連付けながら、具体例を通して現代社会のかかえる問題を考察させるような学習の充実を図る。
- ・ 新しい学習指導要領の中で新たに学習する用語や概念を意識し、それらを社会的事象に当てはめながら、具体的に理解させる指導を行う。

〈標準解答〉

2	(1)	ア	(例) 減少し	イ	(例) 増加する	(2)	イ	(3)	エ	(4)	ア
	(5)	ウ	(例) 人口が減少傾向にあることに加えて、投票率が低い			エ	(例) 自分の考えを政治に反映させる				

〈ねらい〉

公民的分野の学習のまとめとして、少子高齢化が進む社会において生徒たちが自分たちの将来について調べるという場面の中で、非正規雇用や裁判員制度などに関する基礎的・基本的な知識や理解をみる。また、少子高齢社会の中での若者の政治参加の在り方について、資料を読み取り、適切に活用させることによって、思考力・判断力・表現力等をみる問題である。

〈考察〉

- ・ (1)の高齢化の進展と課題を答える問いや、(4)の裁判員制度の意義を答える問いの正答率は、それぞれ84.9%、78.8%と高く、資料の読み取りや基礎的・基本的な知識は概ね身に付いている。

- ・ (2)の被選挙権の規定を答える問いの正答率は、48.9%とやや低く、被選挙権の相違に関する正確な理解に課題がある。

〈今後の指導〉

与えられた資料の中から課題を見い出す学習や、課題の解決に向けて具体性のある内容を論述したり、意見を発表したりする学習の充実を図る。

4 〈標準解答〉

(1)	ウ	(2)	南極	(3)	(例) 軍需品の生産を優先したため、食料や衣料品などの生活必需品の生産が減少した。
(4)	(例) 自分たちで農業を行い、必要な食料を得ることができるようになる (自分たちで農業ができる人材を育てることになる)				

〈ねらい〉

世界遺産に関する資料を基に、世界の平和について調査を行う場面の中で、大陸の分布や文化の多様性に関する基礎的・基本的な知識や理解をみる。また、戦時下の国民生活や発展途上国の支援に関する資料を読み取り、適切に活用させることによって、思考力・判断力・表現力等をみる問題である。

〈考察〉

- ・ (1)の文化の多様性の意義を答える問い、(2)の大陸の分布を答える問いは、正答率がそれぞれ97.1%、85.8%と高く、資料を読み取る力や基礎的・基本的な知識は十分身に付いている。
- ・ (4)の発展途上国の支援の在り方を答える問いの正答率は58.1%で、他の問いと比べてやや低く、発展途上国の自立という基準に沿った具体的な取り組みを自分の言葉で表現することに課題がある。

〈今後の指導〉

3つの分野全体を通して、習得した知識を活用し、様々な資料を比較したり関連付けたりした学習の成果を、適切に表現できるよう指導を行う。

